

神の国の譬え (10)

「十人のおとめ」

(馬場 真貴子 師)

【聖書のみことば】 マタイの福音書 25 章 1-13 節

1 そこで、天の御国は、たとえて言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。2 そのうち五人は愚かで、五人は賢かった。3 愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。4 賢い娘たちは、自分のともしびと一しょに、入れ物に油を入れて持っていた。5 花婿が来るのが遅れたので、みな、うとうとして眠り始めた。6 ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ』と叫ぶ声がした。7 娘たちは、みな起きて、自分のともしびを整えた。8 ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』9 しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはとうてい足りません。それよりも店に行って、自分のをお買いなさい。』10 そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼と一しょに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。11 そのあとで、ほかの娘たちも来て。『ご主人さま、ご主人さま。あけてください』と言った。12 しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません』と言った。13 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。